

# 断章 旭川のアイヌ語 地名研究

②

高橋 基

実証的アイヌ語地名研究法を確立した山田秀三は、『北海道の地名』の中で、旭川のウツペツ川について、「ウツ・ペツ（肋骨・川）の意」と書いた上で、「ウツナイやウツペツの類は諸地にあるが、意味がはっきりしない。沼や大川と肋骨のような形で繋がっている川というが、具体的にはどうも見当がつかない。この名もアイヌ古老に聞いたこともあったが、わかりにくい名である。この川曲がりの辺に昔沼でもあったのであろうか。」と、帯広市のウツペツ川と共に難解なアイヌ語地名としてあげている。

山田秀三が右のアイヌ古老に聞いたというメモが残されている。川村カ子トエカシからの聞き書きであった。

## —ウツペツ川とウツナイ(下)—

(1)ウツペツに付き—このウツは肋骨のウツではない。「鉄分を含んで濁っている」のをウツという。(2)オホウツナイ—このウツはぐるぐる廻っている川の意味である。

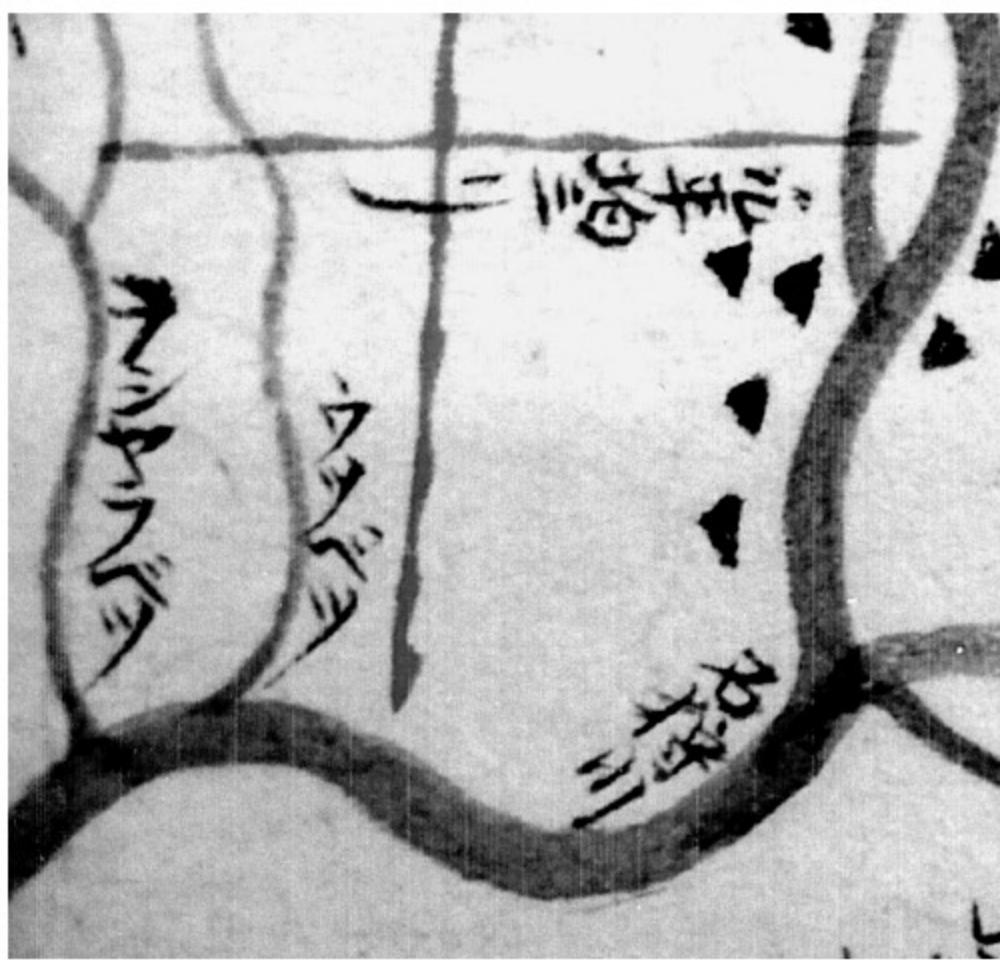
前号の知里真志保のウツペツの地名解も、「やち川」であった。右の川村カ子トエカシのウツの意識も、「ウツ（ユツ）」の意味よりも、現実の川に対する実感が述べられたものと言えよう。この点は次回のオホーツナイ川でも検討したい。

さて、永田方正は、『北海道蝦夷語地名解』で、ウツナイ系の川は、十三例を採録し、基本的には「脇川」と地名解をしている。右の知里地名解のように、坏堀川、谷地川が、それぞれ一例ずつある。また、ウツペツはわずか一例で、現在の比布ウツペツ川と思われるが、石狩川左岸と誤記されている。

前号も紹介したように、永田方正は、旭川のウツペツ川は、「ウツナイ（ut-nai 脇川）—オサラペツノ脇ヨリ大川ニ入ル」と記録した。しか

し、前号で提示したように、明治三十一年製版の「仮製五万分一図」では、ウツペツは、オサラッペに直接流入していた。写真①の明治二十三年

写真①



写真②

年「上川市街之図」は、石狩川にも注いでいるが、分流がオサラッペ川に流入している（残念ながら、右の二図の原図は所在不明）。明治二十六年「石狩国上川郡鷹栖村区画図」とその原図では、オサラッペ川への分流が切れた状況で描写されている。ただし、明治三十四年製版「上川地方迅速測図」では、オサラッペ川に流入しているのは、ウツペツ川の分流とは別の細流が描かれている。

他方、写真②の明治五年の高畑利宜の「石狩川検分図」では、ウツペツは直接石狩川に流入している。ウツペツ川の初出図で、この後明治二十年までウツペツ川は知られないままであった。また、第十七回に紹介した松浦武四郎のクーチンコロからの聞き書きでは、オサラッペ川の支流名にウツペツ川は記載されていない。

これらの状況から、ヤチ川のウツペツ川が、オサラッペ川に流入していたと断定するには、原図の発見等、まだ探索が必要である。いずれにしても、全道の「ウツ（ユツ）」地名と共に、今後も研究を要する川である。

(アイヌ語地名研究会幹事)

※毎月第一週号に掲載します